

## 議会報告会 報告書

秦野市議会議長 小菅 基司 様

総務常任委員会委員長 相原 學

開催日時	令和4年11月5日（土）午前10時から午前11時40分まで
開催場所	市役所本庁舎4階 議会第一会議室
出席委員	委員氏名（役割）
	八尋伸二（副議長あいさつ、1班記録） 相原學（司会、1班進行）、原聡（2班進行）、山下博己（2班記録）、 谷和雄（2班記録）、川口薫（1班発表）
参加者数	○深谷 様（防災アドバイザー） ○久保寺 様（防災アドバイザー） ○伊藤 様（防災アドバイザー） ○東江 様（防災アドバイザー） ○松永 様（学生団体E4） ○豊田 様（学生団体E4）
主な流れ及び 時間配分	1. 開 会 2. 副議長あいさつ 3. 常任委員会委員及び参加者の紹介 4. 議会報告 5. 委員会の活動状況 6. アイスブレイキング 7. 意見交換（ワークショップ） テーマ：女性及び若者目線でこれからの防災を考える～各世代の災 害に対する意識の高揚～ 8. 発表・講評 9. 閉 会
内容  （話し合われた 課題や意見、所感 等）	【意見交換内容】 川口委員による約10分間のアイスブレイキングの後、意見交換 （ワークショップ）が開催された。意見交換では、2班のグループに 分かれ、テーマに沿ってそれぞれで話し合いを行った。  1班テーマ ～様々な視点からの防災意識の高揚について～

**【1班の発表内容】** 発表者：川口薫委員

- ・最近、近隣市では、若者に興味を持ってもらうための防災の啓発に Y o u T u b e が利用され始めているので、今、配信しているもの以外に、このような事例を参考にしていたほうがよいのではないかな。
- ・防災マップは、実際、どの程度見られているのか。学生の感覚では冊子のようなものは、見ることは少なくてタブレットやスマートフォンなどで、調べるといった感覚である。何か調べるときはいつもスマートフォンを開くことが多いので、そういう人に対応できる情報を提供していった方がよい。
- ・秦野市でもホームページに総合防災マップを載せているが、なかなかそこまでたどり着けない。たどり着いても、その使い方や情報量が多く活用しづらいので、まず、見てもらうことが大事かと思う。例えば、防災訓練で集まったときや様々な講習会などに関しては、身近なものにしていかないといけない。
- ・防災に対する危機意識の中から、避難所の運営をしっかりと考えていかななくてはならない。
- ・女性目線という話の中で、女性は地域の情報をかなり掴んでいるので、避難所運営の中で女性の意見をもらえるような仕組みが必要かと感じた。
- ・避難所でのペットに関して、一緒に生活していて家族のように思っている方が多い中で、避難所の過ごし方や災害にあった時の対応もしっかりとこれから考えていかなければならない。

2班テーマ

～大規模災害が発生した場合に備えた防災対策としての広域連携・後方支援について～

**【2班の発表内容】** 発表者：豊田さん

- ・テーマとしては、広域連携・後方支援ということだが、話し合いの中では、それ以前に自分たちのことを守る「自助力」が必要だという話になった。自治会の会長が1年で交代してしまうことや若い年齢の方は、一日家に居るわけではないので、自分たちの地域を知らないことが多く、危機感がない人が多い。危機感がない人たちが自分たちの地域を助けることは、なかなか難しいと思うという意見があり、自助力ということに焦点を当てた。
- ・具体的には、自治会同士の横のつながりを作っていくことや、自分たちの住んでいる地形・地盤を知っていくことが必要だという意見

があった。

- ・自治会役員が1年で交代することもあることから、自主防災組織の専属化が必要な手段ではないか。
- ・防災意識を高めていくという観点から、家族で参加できる防災運動会のようなイベントを実施してはどうか。また、防災のイベントを全面に押し出すのではなく、地域のお祭りの中に防災の観点を組み込むなど、楽しんで防災の意識を高めるということが必要なのではないか。
- ・若い年齢の方が消防団や自治会にすごく入りづらいという現状があるので、若い年齢の方だけでそのような組織を作ってはどうか。災害が発生したときに助ける主役になるのはおそらく若い年齢の方になると思う。

相原委員長より講評の後、原副委員長から閉会のあいさつがあった。